

酪農学園大学ボランティア派遣

石巻チーム第一陣

渡辺 洋子 更科 響 岡崎 智仁 野田 将寛



活動概要

- 期間
 - － 2011年4月28日(金)
～ 5月 8日(日)
- 場所
 - － 石巻を拠点とした宮城県沿岸地域
- 活動内容
 - － NPO法人パルシックの活動参入
 - － 気仙沼市小泉浜災害ボランティアセンターでの活動支援



NPO法人パルシック

- 活動理念

- ただ物資を送るだけでなく、住む人と話し触れ合うことで信頼関係を構築する
- 本当に必要な物資を必要な分だけ配布する
- 見落とししやすい僻地の避難所や少人数の避難所、自宅避難まで巡回する

- 活動内容

- 倉庫管理
- 物資の配布
- 瓦礫撤去作業
- 個人宅の復興支援



倉庫とは

- ・物資を集めておくための場所
- ・物資の整理



配布とは

- 物資が必要な避難所に配布
- ニーズの調査

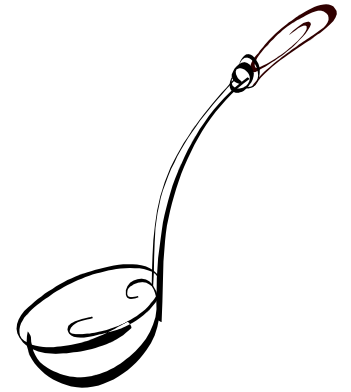


←物資の積み込み

↑物資の配布&ニーズ調査

避難所のニーズ

- 食料、調理器具など



- 衣類、靴などの生活用品



- ソーラーパネルでの電気の供給



避難所の様子・現状

- 様子
 - － 比較的元気
- 現状
 - － 衣服などが洗濯できない。
 - － ほとんどプライベート空間がない
 - － 仮設住宅に移動する人が増加
 - » 身体的・精神的ストレス



はまセンについて

- ボランティアセンター 兼 避難所になっている。
- 総ボランティア人数が200～300人
- 「チェーンソーを扱える」など
特殊な技能を持った人が多数いる。



活動内容

- 活動内容
 - 朝のミーティングで今日の活動を決める
 - 瓦礫撤去、倒壊家屋の解体



瓦礫撤去・倒壊家屋の解体について

- 倒壊した家屋の手作業による解体作業
 - 記念品・遺留品の回収
- 瓦礫処理場の確保
 - 散乱した瓦礫を撤去し重機が入れるようスペースを確保する
- 瓦礫の分別作業
 - 重機が入った際効率よく作業が進むよう瓦礫を種類別に分別



はまセン被害状況

- 被害状況

- 海に近いので、少し高いところでも津波で流されてしまっている。
- 瓦を使った家屋が多く、大量の瓦や木の板、破片などが落ちている。



↑ 津波でなぎ倒された家

↓ 乗りあがってしまった瓦礫の山



個人宅の復興支援

～佐々木宅～

- 被害状況
 - 工場完全浸水・破損
 - 自宅1階浸水
- 活動内容
 - － 工場内の瓦礫及び土砂撤去
 - － 木材運搬



佐々木さんの話

- 人との繋がりの重要性
 - － 何をしたというより、来たということ自体が精神的支援に繋がる
 - － 復興へ前向きに歩むきっかけ



瓦礫処理の状況

- 仮置き場が増え、民有地にまで広がっている。
- 各自治体だけでは、全ての瓦礫を処理するのは困難



災害廃棄物の推計量

岩手県……約600万 t

宮城県……約1600万 t

福島県……約290万 t

合計:約2490万 t



阪神大震災より
約1.7倍の量

瓦礫処理までの流れ



一次仮置き場

二次仮置き場



津波の被害

- 各地の状況
 - 処理されていない瓦礫が大量に残存
→リアス式海岸の南北300Kmに渡り津波の被害
 - 未だ電気・水道・ガスが復興していない
 - 地盤沈下による浸水

↓ソーラーパネルによる発電



→崩壊した街が延々と続く

気仙沼市小泉浜
海岸から数キロ離れた地点でも
津波の影響が及んでいる



A photograph of a residential street in Ishinomaki City, Japan, that has been severely flooded. The water is murky brown and reaches up to the windows of the houses on the left. In the background, there are several houses, some with brown roofs, and a large blue tarp covering some debris. Power lines and poles are visible overhead. The sky is overcast and grey. The text is overlaid in the bottom left corner.

石巻市内
地震の影響により地盤沈下
マンホールから汚水が流出
→ひざ下ほどの高さまで浸水

ご清聴
ありがとうございました

